

市川の地図を調べる

(市川市ってどんな街? 5)



1. 地形図・測図（1枚もの）—明治時代～現在
2. 地形図・測図（地図帳）—明治時代～現在
3. 古い地図—江戸時代
4. 地質や活断層を調べる地図
5. 土地利用図
6. 都市計画図
7. 住宅地図
8. 住居表示（地番）を調べる地図
9. 航空写真
10. その他の地図

掲載した資料は、すべて中央図書館所蔵です。
【 】は所蔵場所をさしています。

1. 地形図・測図（1枚もの）—明治時代～現在

地形図は地表の形態を詳細に表示した地図で、新旧の地形図を比較することにより、地形の変遷がわかります。

『1:25,000 地形図』【地図棚 キ・ク・ケ】

2万5千分1地形図は、実際の測量に基づいて国土地理院で作成された、国土全体をおおう最大の縮尺地形図で、日本の基本図として各方面で利用されています。現在、全国を約4400面前後でカバーしています。「市川」という地名では発行されておらず、市川市は「船橋」「松戸」「浦安」の3枚の地図の組み合わせとなります。「船橋」は市川市の中心部、「松戸」は市川市の北部、「浦安」は市川市の南部をカバーしています。1917（大正6）年測定からほぼ10年ごとに所蔵しています。

2万5千分1地形図所蔵表（明治時代は迅速測図及び正式地形図（2万分1）です）

	明治	大正	昭和	平成
松戸 （市川北部）	1880 (M13)*1	1917 (T6) 1921 (T10)	1932 (S7), 1944 (S19), 1952 (S27), 1960 (S35) 1970 (S45), 1980 (S55), 1985 (S60)	1989 (H1), 1998 (H10) 2005 (H17), 2019 (R1)
船橋 （市川中心部）	1880 (M13)*2 1903 (M36)	1917 (T6) 1921 (T10)	1932 (S7), 1945 (S20), 1953 (S28), 1959 (S34), 1965 (S40), 1970 (S45), 1976 (S51), 1980 (S55), 1985 (S60)	1989 (H1), 1998 (H10) 2007 (H19), 2019 (H31)
浦安 （市川南部）	1880 (M13)*3	1917 (T6)*4 1921 (T10)*4	1928 (S3), 1932 (S7), 1945 (S20), 1966 (S41), 1970 (S45), 1976 (S51), 1980 (S55), 1985 (S60)	1989 (H1), 1993 (H5), 1998 (H10), 2005 (H17) 2014 (H26)

*1は「市川駅」「八幡町」「小金町」 *2は「市川駅」「八幡町」「船橋駅」 *3は「逆井村」 *4は「猫実」

☆Web「地理院地図>地図・空中写真閲覧サービス>地形図・地勢図

歴」<http://mapps.gsi.go.jp/history.html#11=37.3912834,140.3903225&z=5&target=t25000>(2020.4確認)

で国土地理院の保有している地形図・地勢図の図歴を閲覧することができます。

『1：10,000 地形図』【地図棚 コ】

市川市を含む地図は全部で8枚（市川、行徳、塩浜、中山、船橋、松戸、松飛台、浦安）。1994（平成6）年以降を所蔵しています。また、行徳のみ1984（昭和59）年があります。

『1：50,000 地形図』【地図棚 カ】

市川市を含む地図は全部で2枚（東京東北部、東京東南部）。1909（明治42）年からほぼ10～20年ごとに所蔵しています。

『迅速測図』【書庫】

「迅速測図」とは、正式地形図に先行して1880（明治13）年から1886（明治19）年にかけて参謀本部陸軍部測量局により作製された地図です。縮尺は2万分1。市川市を含む地図は全部で5枚（八幡町、市川駅、船橋駅、逆井村、小金町）。1880（明治13）年の測図を所蔵しています。測量は色彩豊かなフランス式ですが、軍制の変更により、ドイツ式（一色線号式）で刊行されたため地図は白黒です。

『明治前期測量2万分1フランス式彩色地図』【地図棚 ス】

フランス式の「迅速測図」を復刻した地図です。市川市を含む地図は全部で6枚（市川駅近傍村落、本行徳駅近傍村落、欠真間堀江両村近傍村落、大埜村近傍村落、高谷北方西海神等村落、妙典村南部之図）。

☆Web「古地図コレクション（国土地理院）>迅速測図原図（フランス式彩色図）」

<https://kochizu.gsi.go.jp/france-saisyokuzu>（2020.5 確認）国土地理院が所蔵する古地図等を公開しています。

『正式二万分一地形図』【書庫】

「正式二万分一地形図」は1903（明治36）年から1904（明治37）年にかけて測量された地図です。ただし、特定地域についてしか作成されておらず、1910年代以降は作成が中止されたため、旧版地形図としてはあまり利用されてきませんでした。1903（明治36）年の測図『船橋』『国府台』を所蔵しています。

2. 地形図・測図（地図帳）－明治時代～現在

複製された地図を地図帳形式にまとめたものです。地域の変遷や近隣の地図をまとめて参照することができます。

『明治前期関東平野地誌図集成 1880（明治13）年～1886（明治19）年』（柏書房1989） 【T/R291.3/X】

「迅速測図」を再製した地図資料集です。原図の縮尺は2万分1ですが、現行地形図との比較のために縮小し、2万5千分1としてあります。市川市を含む地域は全部で3枚（船橋、松戸、浦安）。1880（明治13）年の測図です。

『大正・昭和東京周辺 1 万分 1 地形図集成 京葉・京浜・多摩地区』(柏書房 1984)【書庫】

1 万分 1 地形図を再製した地図資料集ですが、一部 2 万 5 千分 1 が掲載されており、市川市を含む地図は 2 万 5 千分 1 の地図で 3 枚（船橋、松戸、猫実）です。1917（大正 6）年の測図です。

『明治・大正・昭和 東京 1 万分 1 地形図集成』(柏書房 1983)【T/R291.36/X】

1 万分 1 地形図を再製した地図資料集で、市川市を含む地図は全部で 3 枚（船橋、松戸、浦安）。1937（昭和 12）年測図分の掲載があります。

『日本列島二万五千分の一地図集成 2』(科学書院 1991)【書庫】

明治から昭和初期までの 2 万 5 千分 1 地形図を再製した地図資料集です。市川市を含む地図は全部で 3 枚（船橋、松戸、浦安）。1917（大正 6）年、1921（大正 10）年*松戸のみ、1928（昭和 3）年、1932（昭和 7）年の測図の掲載があります。

『戦災復興期東京 1 万分 1 地形図集成』(柏書房 1988)【T/R291.36/セ】

1 万分 1 地形図を再製した地図資料集で、市川市は 1945（昭和 20）年及び 1957（昭和 32）年の測図の掲載があります。市川市全体は網羅されていませんが、市川市を含む地図は昭和 20 年測図が全部で 5 枚（市川、行徳、金町、小岩、小松川）、昭和 32 年測図は全部で 6 枚（行徳、篠崎、小岩、小松川、江戸川、葛西）です。

『明治前期・昭和前期東京都市地図 1 東京東部』(柏書房 1995)【I/C4】

2 万 5 千分 1 と 1 万分 1 迅速測図及び地形図を再製した地図資料集です。現行地形図と直接対照できるような図郭を設定してあるため、明治からの地域定点観測が可能です。2 万 5 千分 1 地図では、市川市を含む地図は全部で 3 枚（船橋、松戸、浦安）。1880（明治 13）年、1932（昭和 7）年、1965（昭和 40）年の測図です。1 万分 1 地図では、市川市全体は網羅されていませんが、市川市を含む地図は全部で 3 枚（松戸・市川、市川・行徳、行徳）。1880（明治 13）年、1903（明治 36）年、1937（昭和 12）年、1945（昭和 20）年、1958（昭和 33）年の測図です。*測図を組み合わせているため、一部異なる年もあります。

『千葉県の歴史 別編地誌 3：地図集』(千葉県 2002)【C10/B1/38】

地形図にみる地域の変容として、「行徳」「市川」地区の 2 万 5 千分 1 の地形図の掲載があります。1945（昭和 20）年、1970（昭和 45）年、1998（平成 10）年の地図です。

『地図に刻まれた歴史と景観 2 市川市・浦安市』(新人物往来社 1992)【I/B6/2】

市川市を 7 エリアに分け、1880（明治 13）年、1921（大正 10）年、1965（昭和 40）年、1989（平成元）年の 4 時代の測図、地形図を組み合わせて使用した資料です。明治、大正の測図には平成元年の地図を重ねることができ、地形の変化を比較することができます。

『市川市が誕生したころ』(市立市川歴史博物館 2004)【I/B7】

2万5千分1地図の「船橋」のうち市川市域周辺の地図を再製して掲載してあります。1919(大正8)年、1932(昭和7)年、1947(昭和22)年、1967(昭和42)年、1987(昭和62)年の地図です。

『戦時下の市川市域』(市立市川歴史博物館 1997)【I/B7】

1934(昭和9)年の2万5千分1地図に陸軍工兵学校や練兵場などの軍事施設を書き込んだ昭和初期の地図や1945(昭和20)年頃の市川市付近の軍隊による防空態勢を書き込んだ地図の掲載があります。また、表紙には1945(昭和20)年2月25日の空襲被災図が掲載されています。

3. 古い地図－江戸時代

江戸時代のものは国絵図(江戸幕府が主要大名に命じて作らせた旧国単位の地図)や切絵図などの絵図といわれる地図です。描写に絵画的要素が強く、作図者に絵師が多かったことにより絵図といわれています。著作権の保護期間を満了しているものはインターネットで閲覧することができます。

『江戸時代 日本国絵図選要 [正]』(人文社 1979)【R291.03/ニ/1】

1843(天保14)年秋山永年作の「富士見十三州輿地全図之内 安房・上総・下総三国図」の掲載があります。同図の1枚ものは【地図棚シ】にもあります。

☆Web「国立国会図書館デジタルコレクション」<http://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/2563865> (2020.5 確認)で「富士見十三州輿地全圖 4 安房國・上総國・下総國」をカラー画像で閲覧できます。

『嘉永慶応江戸切絵図』(人文社 1977)【R291.36/カ】(人文社 1966)【書庫】

1844(弘化元)年紙屋徳八作の「増補 東都近郊全図」の掲載があります。江戸城を中心に東から行徳－船橋…川崎を結んだ地域を包含しています。

☆Web「ADEAC (アデアック)」<https://trc-adeac.trc.co.jp/> (2020.5 確認)自治体史や古文書をはじめとする史資料を機関ごとに公開しているデジタルアーカイブシステムで西尾市岩瀬文庫の「増補 東都近郊全図」をカラー画像で閲覧できます。

『国絵図の世界』(柏書房 2005)【R291.03/ク】

正保、元禄、天保の下総国の国絵図の掲載があります。また、『行徳レポート その(1) 年表・絵地図集』(市立市川歴史博物館 1989)【I/CO】には正保、天保の下総国の国絵図が掲載されています。

☆Web「国立公文書館デジタルアーカイブ」<http://www.digital.archives.go.jp/> (2020.5 確認)で「元禄国絵図下総国」「天保国絵図下総国」をカラー画像で閲覧することができます。

『水戸佐倉道分間延絵図 第1巻』(東京美術 1990)【I/C3】

江戸時代中期の寛政年間に編集された「五街道分間延絵図」全百三巻之内の1つです。1806(文化3)年に刊行された絵図で、道路に沿って寺院・旧跡などが実測の1/1800の縮尺で描かれています。

☆Web「東京国立博物館画像検索」<https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/index> (2020.5 確認)で、「五海道其外延絵図_水戸佐倉道」をカラー画像で閲覧することができます。

『江戸名所図会 下 原寸復刻』(評論社 1996)【I/C0】

江戸時代後期の天保年間に刊行された江戸の地誌で、江戸を中心に東は市川・船橋までの名所・旧跡が記された、絵入りのガイドブックのようなものです。「行徳船場」や「市川渡口根本橋」など細かな描写が楽しめます。縮尺して1冊にまとめた資料として『日本名所風俗図会 4:江戸の巻 2』(角川書店 1980)【I/C0】や文庫サイズの資料として『江戸名所図会 6』(筑摩書房 1997)【I/C0】があります。また、1836(天保7)年刊の『江戸名所図会 第20冊(第7巻)』(須原屋茂兵衛ほか)【書庫】も所蔵しています。

☆Web「国立国会図書館デジタルコレクション」<https://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/2563399> (2020.5 確認)でも閲覧することができます。

『絵図から見たいちかわ』(市立市川歴史博物館 2012)【I/C4】

市川歴史博物館の平成23年度企画展パンフレットです。成立年代未詳とされる「下総之国図」、寛文年間(1661~1672)以前の作成と推定される「下総一国之図」から明治までの絵図をオールカラーで紹介しています。

☆Web「ADEAC(アデアック)」<https://trc-adeac.trc.co.jp/> (2020.5 確認)で船橋市西図書館所蔵の「下総之国図」「下総一国之図」をカラー画像で閲覧できます。

『千葉県の歴史 通史編近世2 付録』(千葉県 2008)【C10/B1/5-2】

「下総国輿地全図」として2種類の絵図があります。1848(弘化5)年の清宮秀堅作の絵図、1849(嘉永2)年の菊屋幸三郎、鶴峰戊申作の絵図です。

☆Web「千葉県立図書館 菜の花ライブラリ

一」<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/nanohana/index.html> (2020.5 確認)で清宮秀堅版をカラー画像

で閲覧することができます。「絵地図・地図」の項目で他にも何点かの地図が公開されています。

☆Web「古地図コレクション」<https://kochizu.gsi.go.jp/> (2020.5 確認)で鶴峰戊申版をカラー画像で閲覧することができます。

『伊能図：東京国立博物館所蔵伊能中図原寸複製』(武揚堂 2002)【T291.03/1】

伊能図「大日本沿海輿地全図」は、わが国初の全国的な実測図で、地形図の源流に位置づけられます。伊能忠敬の測量隊は1800(寛政12)年から1816(文化13)年までの17年間全10回の測量旅行を行い、日本全図を製作するためのデータを集積しました。房総半島は1801(享和元)年の第2次測量にて測量されています。中図の原寸複製で「東京・千葉」に掲載があります。

☆Web「古地図コレクション>伊能図」<http://kochizu.gsi.go.jp/> (2020.5 確認)で伊能中図、伊能大図を高精細画像で閲覧することができます。

『下総名勝図絵』(国書刊行会 1990)【C20/C1】

江戸時代後期の国学者・宮負定雄による下総の地誌です。1847(弘化4)年頃に完成をみたされています。絵の筆致に誇張がなく、当時の景観・風俗を活写しており、記録写真的価値の高いものといえます。「行徳塩浜」や「葛飾八幡宮」など、のどかな描写が楽しめます。

4. 地質や活断層を調べる地図

『1:25,000 土地条件図』【地図棚 サ】

地形分類や地盤高線、防災施設などの分布を示した地図です。市川市を含む地図は全部で2枚（東京東北部、東京東南部）。調査年は1978（昭和53）年で、更新されていません。

『土地分類基本調査 東京東北部・東京東南部 5万分の1』(千葉県企画部企画課 1985) 【I/C4/84】

地形分類図、表装地質図、土壌図、水系および谷密度図、傾斜区分図、土地利用現況図の6枚の地図があります。調査年は1984（昭和59）年です。

『土地分類図 12 千葉県 20万分の1』(経済企画庁総合開発局 1972)【C10/U5/72】

地形分類図、表層地質図、土壌図、傾斜区分図、表層地質図の5枚の地図があります。調査年は1969（昭和44）年、1970（昭和45）年度です。

『東京 第2版 (50万分の1 活構造図)』(通商産業省工業技術院地質調査所 1997) 【C10/U5/1997】

活構造図、地震構造図、重力構造図の3枚組の地質図で、首都圏の活断層、地震、基盤構造などを総合的に示した50万分1の地図です。調査年は1997（平成9）年です。「活構造図」には活断層や最近の地震で動いた断層が、「地震構造図」には過去に起きた地震の震央が、また「重力構造図」には地下の岩盤の深さや変化の様子などが示されています。

『日本地質図大系 関東地方』(朝倉書店 1990)【書庫】

1979（昭和54）年調査の「東京湾とその周辺地域の地質」（10万分1）の掲載があります。

『東京湾とその周辺地域の地質 第2版』(通商産業省工業技術院地質調査所 1995) 【C10/U5/1995】

10万分1地質図、地質断面図の2枚組の特殊地質図です。調査年は1995（平成7）年、上掲の地図を十数年ぶりに改訂しています。首都圏の地質や地盤を理解するための重要な地質図です。

『後期新生代地質構造図東京』(工業技術院地質調査所 1973)【書庫】

後期新生代地質構造図に新第三系基底面等高線図のほか4枚のオーバーレイの地図を組み合わせた活断層ストリップマップです。

『<新編>日本の活断層 分布図と資料』(東京大学出版会 1991)【T/454.4/二】

国土地理院発行の20万分1地勢図ごとにつくられた陸上活断層の分布とそれに関する1990年時点での集

成資料です。市川市を含む地図は「東京」1枚です。

『東京湾北縁断層に関する調査成果報告書（概要版）』（千葉県 1998）【I/U5】

前掲『<新編>日本の活断層』に伏在断層（平野下に存在し、新しい地層に厚く覆われ、地表には断層変位地形が直接現れないもの）として存在が推定されていた「東京湾北縁断層」（千葉市～市川市・船橋市）の存在の有無と位置の確認、地質構造を把握するために行った調査の報告書です。『<新編>日本の活断層』の地図に「東京湾北縁断層」を加筆した断層推定位置図の掲載があります。なお、調査の結果、活断層は確認されませんでした。

『地震被害想定等調査総合報告書』（市川市 1996）【I/T8】

市川市が実施した「地震被害想定等調査」の結果と、様々な地域データを総合的にまとめた報告書です。「液状化発生危険地域」「地盤危険度」等をまとめた地図が掲載されています。

☆Web「市川市地図情報システム いち案内」<https://gis.city.ichikawa.lg.jp/webgis/?p=1>

（2020.5 確認）で「液状化危険度」や「水道管被害危険度」等防災に関する地図が閲覧できます。

『市川市水害ハザードマップ』（市川市 2020）【I/T8/20】

地域の住民の方々がすばやく安全に避難できることを主な目的に、浸水被害の想定される区域と被害の程度、さらに避難所などの情報を地図上に明記したものです。2018（平成 30）年まで発行されていた『市川市洪水ハザードマップ』を、より実践的な内容にリニューアルし、2020（令和 2）年に『市川市水害ハザードマップ』として発行されています。

☆Web「市川市水害ハザードマップ」<http://www.city.ichikawa.lg.jp/gen06/1511000002.html>（2020.5 確認）

☆Web「ハザードマップポータルサイト」（国土交通省）<https://disaportal.gsi.go.jp/>（2020.5 確認）

『市川市減災マップ』（市川市 2019）【I/T8/19】

いつ発生するかわからない地震に備えて、避難場所や避難所等地震の際に役立つ情報を掲載した地図です。2012（平成 24）年版までは市内全域 1 枚の地図でしたが、2015（平成 27）年には市を 4 つの区域（南部、北西部、中部、北東部）に分けて、地区ごとの特徴が掲載された更に詳細な地図を作成しました。2019（令和元）年に更新されています。

☆Web「市川市地区別減災マップ」<http://www.city.ichikawa.lg.jp/cri01/1111000002.html>（2020.5 確認）

『治水地形分類図』【地図棚 工】

国が管理する河川流域のうち、平野部を対象として作成された 2 万 5 千分 1 の地図です。水害や地盤沈下、液状化の危険度の判定にも役立ちます。1977（昭和 52）年作成。江戸川流域の 3 枚（船橋、松戸、浦安）を所蔵しています。

『関東地域累積地盤沈下量図』【地図棚 工】

関東地域の 1 年間の地盤沈下量を、縮尺 20 万分 1 の地図上に 10 ミリ毎の等値線で表示した地図です。2003（平成 15）年から 5 年間の累積地盤沈下量図及び 2007（平成 19）年 1 年間の地盤沈下等量線図を所蔵して

います。

5. 土地利用図

土地の利用状態を現地調査及び空中写真・資料等より分類し、色分けした地図です。

『1:25,000 土地利用図』【地図棚 サ】

市川市を含む地図は全部で3枚（船橋、松戸、浦安）。調査年は1977（昭和52）年、更新されていません。

『土地分類基本調査 東京東北部・東京東南部 5万分の1』【I/C4/84】

1984（昭和59）年調査の土地利用現況図があります。

6. 都市計画図

市街化区域、市街化調整区域、用途地域、建ぺい率・容積率や、都市施設等を示した地図です。

☆Web 「市川市地図情報システム いち案内」 <https://gis.city.ichikawa.lg.jp/webgis/?p=1>

（2020.5 確認）では、市川市の「都市計画基本図」が用途地域、地域地区、都市計画、地区計画等、概略位置を示した参考図として閲覧できます。

『1:10,000 市川市都市計画図 色図』『1:12,500 市川(市)都市計画図 色図』【地図棚 ウ】

用途別に色分けした都市計画図で、1万分1図は、市川市を北部と南部に2分割しています。1985（昭和60）年以降を所蔵（欠年あり）しています。2012年以降は、1万2,500分1図で市全域が1枚になりました。2012（平成24）年、最新版の2017（平成29）年10月発行を所蔵しています。

『1:25,000 市川市都市計画図 色図』【書庫】

市川市全体を1枚にまとめた、用途別に色分けした用途地域図です。1971（昭和46）年、1981（昭和56）年、1989（平成元）年、1993（平成5）年を所蔵しています。

『1:10,000 市川市都市計画図 白図』

『1:12,500 市川市全図 (市川市)都市計画図 白図』【地図棚 ウ】

都市計画を書き込むための白図で、1万分1図は、市川市を北部と南部に2分割しています。1957（昭和32）年以降を所蔵（欠年あり）しています。2012年以降は、1万2,500分1図で市全域が1枚になりました。2012（平成24）年、最新版の2017（平成29）年10月発行を所蔵しています。

『1:2,500 市川市都市計画図 白図』『市川市都市計画基本図 白図』【地図棚 イ・書庫】

市川市を33エリア（発行年により34,36エリア）に分割した都市計画を書き込むための白図です。1989（平成元）年からほぼ10年ごとに所蔵しています。最新版は2017（平成29）年10月発行のものです。

『市川市域図』【地図棚 ア・書庫】

市川市を16エリアに分割した都市計画図白図に相当します。縮尺は3千分1。編集は1959（昭和34）年

～1960（昭和 35）年です。大野、大町周辺を除く 14 エリアを所蔵しています。

『市川市現況図集』（市川市 1977）【書庫】

用途地域が指定された 1938（昭和 13）年、1942（昭和 17）年、1958（昭和 33）年の都市計画用途地域図及び 1973（昭和 48）年の都市計画図の掲載があります。

7. 住宅地図

1 軒ごとの家名がわかる地図です。航空地図や動態地図とも言われています。

『ゼンリン住宅地図』市川市版（ゼンリン）【レファレンスカウンター】

1970 年以降、毎年刊行されており 1971 年、1982 年を除き全て所蔵しています。なお、市川市版は、1993 年から北部（市川・八幡）、南部（原木・行徳）に分冊されています。

『市川市動態図鑑』（日本都市協会）、（日本広飾企画研究所）【レファレンスカウンター】

ゼンリン住宅地図より古いものとしては、手書きで地図を書いた「筆耕版」住宅地図があります。1957（昭和 32）年版、1961（昭和 36）年版（いずれも日本都市協会）、1966（昭和 41）年版（日本広飾企画研究所）を所蔵しています。一昔前の市川の町並みを知ることができ、特に 1957（昭和 32）年版は世帯主の名前がフルネームで記載されているため、今は亡き市川の文人宅などを調べるのに役立ちます。

『市川市住宅詳細図』（三洋堂）【レファレンスカウンター】

1965（昭和 40）年版の複製を製本して所蔵しています。

参考：市川市立図書館では所蔵していませんが、千葉県立中央図書館では、1963（昭和 38）年、1966（昭和 41）年、1967（昭和 42）年及び『市川市住宅地図』（住宅地図出版社）1968（昭和 43）年版を所蔵しています。

『航空住宅地図帳』市川市（南部）区版（公共施設地図航空株式会社）【書庫】

「行徳から公害をなくす会」の記録集として寄贈され、1976（昭和 51）年の南部のみ所蔵しています。

8. 住居表示（地番）を調べる地図

『ブルーマップ市川市』（民事法情報センター、ゼンリン）【レファレンスカウンター】

住居表示地番対照住宅地図です。いわゆる「住所」から不動産登記の「地番」が簡単に分かるようにした地図帳です。これは『住宅地図』の上に地番をブルーで記入したため、ブルーマップと命名されています。2002（平成 14）年、2005（平成 17）年、2009（平成 21）年以降は 1 年おきに所蔵しています。

☆Web「市川市地図情報システム いち案内」<https://gis.city.ichikawa.lg.jp/webgis/?p=1>（2020. 5 確認）では、地番から検索した地図を閲覧することができます。

『千葉県市川市土地宝典 地番地目地積入図』（帝国市町村地図刊行協会 1964）【書庫】

土地宝典（地籍宝典）とは、明治期から昭和にかけて、土地の区画や地番が入った公図（土地台帳附属地図）と土地台帳を合わせて地図帳形式に編集されたもので、現在のブルーマップのような地図帳です。

1964（昭和 39）年製図の地図です。二分冊の一が市川・八幡・国分・大柏地区、二分冊の二が南行徳・行徳・中山地区です。

『千葉県市川市土地宝典 地番地目地籍入』（日本土地公図出版 1969）【書庫】

1969（昭和 44）年調査製図の地図です。全 5 分冊（中山地区・八幡地区・国府台地区・大野柏井地区・行徳地区）のうち、行徳地区を除いて所蔵しています。付録に「市川市地番地籍地目一覧表」があります。

『千葉県市川市地籍宝典 地番地目地籍入』（日本土地公図出版 1969）【書庫】

1969（昭和 44）年調査製図の地図です。全 5 分冊のうち、行徳地区と市川八幡地区を所蔵しています。

『旧土地台帳付属地図（一筆限地図）』（市川市土木部道路課 1988～1992）【I/C4】

旧土地台帳法に定められた地図で、一般的には「公図」「和紙公図」と言われ、土地の地番・地目・区画を表している地図です。明治初年に行われた地租改正事業の時に、土地の境界・面積・地形を全国的に調査する目的で作成されました。明治期の市川市の歴史を伝える貴重な資料として、地図帳形式で一部復刻されています。現在復刻済みの地図は、第一期（旧行徳町・旧南行徳町）の一部、第五期（旧国分村）、第六期（旧大柏町）の一部です。復刻予定として、第二期（旧市川町）、第三期（旧八幡町）、第四期（旧中山町）となっていますが、現在のところ刊行は未定です。

『住居表示新旧対照案内図』（市川市）【書庫】

住居表示の旧番地と新番地が対照できる『住居表示旧新対照表』『住居表示旧新・新旧対照表』『住居表示新旧・旧新対照表』（市川市）【書庫】の付録地図です。1962（昭和 37）年に施行された「住居表示に関する法律」により町名、番地を整理することになり、市川市では 1965（昭和 40）年から実施し、現在までに実施された地名は 64 になります。図書館では 1966（昭和 41）年施行から 1996（平成 8）年施行までの 24 枚を所蔵しています。なお、対照表は、1965（昭和 40）年施行から 2000（平成 12）年施行まで所蔵していますが、個人情報保護の観点から、閲覧は非公開で当該番地を職員がお調べしています。

『市川市全図』（市川市）、（大日本学生連盟）【地図棚 シ・書庫】

大字、小字、町名、番地の掲載があります。1935（昭和 10）年版を発行が違う 2 種を所蔵しています。中央図書館館内のデータベース端末でも閲覧できます。

『市川市全地図』（市川市）【地図棚 シ・書庫】

大字、小字、町名、番地の掲載があります。1936（昭和 11）年頃、1952（昭和 27）年、1954（昭和 29）年、1971（昭和 46）年版を所蔵しています。

なお、同じタイトルで『市川市全地図』（市川市地歴研究調査会 1937）【書庫】がありますが、こちらは番地等の記載はありません。カラー刷りの 1 枚ものの地図で、市川競馬場の記載があります。

『市川市史 第 2 巻』付録「市川市大字・小字地図」（1 枚）（市川市 1974）【I/B1/2】

市川市の大字・小字を1枚にまとめた地図です。なお、旧町を大字ごとにまとめ、小字名、地番が記載された表形式の資料として『市川市字名集覧』(市川市教育委員会 1973)【I/C2/73】があります。

『千葉県東葛飾郡市川町地番反別地目入図』(日本全国市町村地番入地図刊行会 1930)【書庫】

1930(昭和5)年製図の市川町の地図で、縮尺は2,400分1。大字・小字の掲載があります。

『千葉県東葛飾郡八幡町之地圖』【書庫】

1891(明治24)年作成の地図で、大字・小字の掲載があります。

『耕地整理地区計画確定図』【書庫】

1899(明治32)年に制定された耕地整理法による耕地整理確定図です。1910(明治43)年の計画略図『千葉県東葛飾郡八幡町外二町四ヶ村組合耕地整理地区計画略図』【書庫・鈴木家資料No.41】を経て、1916(大正5)年頃に『千葉県東葛飾郡八幡町四ヶ村組合耕地整理地区計画確定図』【地図棚 シ】が作成されました。また、『千葉県東葛飾郡八幡町外九ヶ村耕地整理地区確定図』【書庫・鈴木家資料No.42、No.82】は1931(昭和6)年頃作成の地図で、千葉県立中央図書館の所蔵資料を複製した『千葉県東葛飾郡市川町土地宝典』(大日本帝国市町村地図刊行会 1931)【書庫】地図3枚のうちの1枚ではないかと推測されます。

『千葉県議会史 第1巻』付録「千葉県管内実測全図」(1枚)(千葉県議会 1965)【C10/H2/1】

都道府県制度の確立に伴い、管轄地の規模や実態を把握するために作成された1881(明治14)年実測編製の管内図です。千葉県内の行政区分が表示されています。なお、『千葉県議会史』の第2巻には「改正千葉県管内図」(1907(明治40)年発行)、第3巻には「千葉県管内実測全図」(1914(大正3)年製図)、第4巻には「千葉県管内全図」(1937(昭和12)年改訂版)の付録があります。

☆Web「千葉県立図書館 菜の花ライブラリー」<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/nanohana/index.html> (2020.4確認)で1885(明治18)年の「千葉県管内実測全図」を閲覧することができます。

☆Web「国立国会図書館デジタルコレクション」<http://dl.ndl.go.jp/> (2020.5確認)で1914(大正3)年の「千葉県管内実測全図」を閲覧することができます。

9. 航空写真

『空から千葉県 航空写真集』(千葉日報社 1987)【C10/CO】

千葉日報社が創刊30周年記念に刊行した航空写真集です。市川市に該当する部分は2枚。1枚は国道14号を中心に、南は平田・本八幡、北は須和田・宮久保まで撮影されています。もう1枚は、国府台付近です。

☆Web「地図・空中写真閲覧サービス」<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1> (2020.5確認)で国土地理院が保有している、地図や空中写真を閲覧できます。地図や空中写真を住所、駅、地名、公共施設などから検索でき、作成・撮影年を指定することもできます。

『空から見た千葉14市 航空写真地図』(日本交通公社 1984)【C10/C4】

市川市は市川真間や国府台、国分など 1983（昭和 58）年に撮影された 15 枚が掲載されています。

10. その他の地図

『松井天山千葉県市街鳥瞰図』（聚海書林 1989）【書庫】

松井天山という絵師が 1927（昭和 2）年から 1938（昭和 13）年までの 12 年間に描いた地図で、昭和初期の街並みがわかります。千葉県は全 26 枚の鳥瞰図で構成されていますが、市川市は「松井天山千葉県市川町鳥瞰図」「松井天山千葉県中山町葛飾村鳥瞰図」（いずれも 1928（昭和 3）年）が該当します。市川市歴史博物館が、平成 26 年に市制施行 80 周年記念の企画展で作成したパンフレット『松井天山の鳥瞰図と市川市域』（市立市川歴史博物館 2015）【V/C1】には詳しい解説があります。

『海図』【地図棚 オ】

海図は航海に必要なさまざまな情報（水深、浅瀬等）を記載した地図です。東京湾の海図や海底地質構造図、東京湾潮流図を所蔵しています。

『震災地応急測図原図「東京東北部」』【書庫】

1923（大正 12）年の関東大震災直後に実施した調査地図です。5 万分 1 の地形図に手書きで被害状況が記載されています。「市川町被害軽微 倒壊家屋、死傷ナシ」「上毛モスリン会社工場半壊、死者 14 名傷者 7 名」（日本毛織の前身、現在のニッケコルトンプラザ）などの文字が読み取れます。市川市を含む「東京東北部」のみ所蔵しています。

☆Web「内閣府 防災情報のペー

ジ」http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1923_kanto_daishinsai/data/index_2.html（2020.5 確認）で「1923 関東大震災報告書 第 1 編（付図）」として掲載があり、閲覧可能です。

『市川市教育要覧 市川市教育要覧図』【書庫】

市川市教育要覧図と教育変遷史が収録されています。出版年は不明ですが、年表の最終日付が 1953（昭和 28）年のため、この年代の作成と推測されます。中央図書館館内のデータベース端末でも閲覧できます。

『いちかわガイド 市川市案内図』（市川市）【V/C4】

市川市が毎年発行している A1 判 1 万 7 千分 1 の地図です。鉄道やバス路線の掲載もあり、市川市の全体を 1 枚で見ることができます。1981（昭和 56）年以降を所蔵（欠年あり）しています。

図書館では皆様の調べ物や課題解決のために様々なお手伝いをしています。調べ方がわからない時は遠慮なくお問い合わせください。また、図書館のホームページからもお問い合わせいただけます。 お問い合わせ： 市川市中央図書館 047-320-3346